

# かほく市図書館 友の会だより

発行日 2020年3月25日

発行者 かほく市図書館友の会

〒929-1173 かほく市遠塚口57-6 かほく市立中央図書館内

## 第24号



## 令和2年度会員募集!!

— 今年もかほく市図書館友の会会員になってください! —

毎年、継続の手続きが必要です

令和元年度の会員は130名で、平成30年度より2名増でした。もっともっと会員数の増加を目指したいものです。

「かほく市立図書館」の応援団として、応援ボランティアや古本市、図書館見学会、友の会の集い、紙しばいの会例会、「わくわく紙しばいカーニバル」等の活動を展開してきました。次年度は9年目になります。

これらの催しの運営や参加だけでなく、図書館へ足を運んでいただくことも会員の大きな活動になります。

130名の方々、なにとぞ会員の継続手続きをお願いします。そして、友人知人をお誘い下さい。友の会9年目となる令和2年度、さらにこの会を発展させ、「かほ

く市立図書館」を応援していきましょう!

### 【申込方法】

- 受付開始日：3月25日（水）～
- 同封の用紙にご記入の上、会費を添えて図書館・図書室カウンターへ。中央・高松・宇ノ気いずれでも。1口500円。2口以上大歓迎!!
- 友の会会員を通して申し込むこともできます。
- 友の会入会コーナーを、中央図書館に設けます。  
4月12日（日） 10:00～15:00  
4月26日（日） 10:00～15:00  
※係は、マスクと除菌シート使用で対応します。

**第9回 かほく市図書館友の会総会 令和2年6月7日（日）13:30【予定】**

継続入会された会員の方には、近くになりましたらご連絡いたします。

## 古本朝市大盛況!!



収益(協力)金 37,100円

## 義援金 25,000円

☆宇ノ気・七塚・高松のほか、内灘町、金沢市からも集まってくださいました。お越しくださった方々、ありがとうございました。

☆いつも本をご寄付下さる方々、ありがとうございます。今後とも、よろしく願いいたします。

☆6月・2月の古本市収益金の中から25,000円を、3月12日（木）に、かほく市役所健康福祉課を通して、東日本大震災義援金として寄付してきました。

☆残りは、友の会の運営にあてさせていただきます。

☆当日は、マスク・消毒液で対応しました。



大盛況の古本朝市!

# 第16回 友の会の集い



## ① 秘密の花園 (講演)

かほく市立中央図書館係長 小村 和代 氏

## ② 「おすすめのもの1冊」 (交流)

令和元年11月23日(土)の勤労感謝の日にセッティングした16回目の「友の会の集い」。

1部は、図書館の小村さんにお忙しい中お話しいただきました。司書の資格をお持ちの小村さんは、もちろん本や図書館の専門家ですが、この頃は、清里のポール・スミザー氏に学び、ポタニカルの世界も広がっていらっしやいます。図書館の植物園が、どんどん姿を変えてきていることにお気づきでしょうか。そんな小村さんの演題は、バーネットの作品名でもある「秘密の花園」でした。

お話は、図書館の周りにあるポタニカル→小村さんが大事にしたいポタニカル(その地域にあった植栽、農薬・化学肥料を使わない)→「秘密の花園」の作品や英国のガーデン・石井桃子さんの作品→小村さんの昨夏のガーデンめぐり…と進んでいきました。

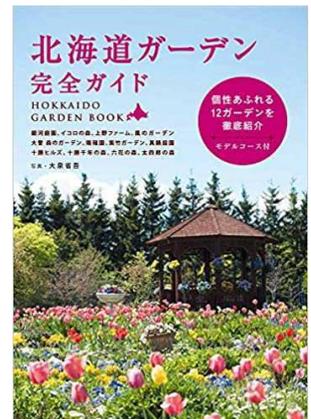
北海道のガーデン街道をレンタカーで1人で駆けめぐり、石川県津幡町と縁のある泉さんや、同じガーデンを訪ねようとしていたかほく市のTさんと巡り合ったとのこと。まるでドラマのようでワクワクしながらお聞きしました。

また10月27日(日)図書館入館者100万人達成にも触れられました。記念行事として南側芝生で、子どもたちや市関係者と共に植え込んだ100球のクロッカス。クロッカスは、バーネットの「秘密の花園」にも登場します。そして球根はポール・スミザー氏を通じて入手したものとのこと。等間隔に穴を開けて植えるのではなく、バラバラと蒔いたところに穴を掘って植え込むと

いうスタイルも、ポール氏から学ばれたそうです。

図書館の仕事をしながら、自身を豊かにしてどんどん世界を広げ、周りまで変えていく小村さん。図書館の植物園の変容がその現れの1つだと思います。小村さんのふつふつとたぎる情熱を羨ましく思うとともに、大きな刺激をいただきました。

2部では、ハガキのアンケートに書いてもらった「おすすめのもの1冊」の一覧表を見ながら交流しました。「アマエビの生物学と日本海」「明恵〜樺尾高山寺秘話」「平家物語 犬王の巻」「夢見る帝国図書館」「すぐ死ぬんだから」など、興味深い部分を具体的に熱く語ってくださって、各自がブックリストにつけ加えました。また三つの賞を取った絵本「なまえのないねこ」の読み聞かせで、大人が絵本を読むことへの提案もありました。



## ■参加者の声

北海道北端のイングリッシュガーデン、その日のたった二人の来園者が偶然同郷の知人だったなんて、まるでドラマ。いっそ映画のシーンならさぞかし…などと、妄想はふくらむばかりです。

それにしても小村さんの辿った北のガーデン巡りは、なんと4泊5日で12ヶ所。お話を聞いているだけで目がまわりそうです。その決断力と行動力に脱帽です。

人はなぜ庭造りに魅せられるのでしょうか。行く先々で生まれてくる繋がりや縁の発見は、庭の持つ不思議と彼女の人のなせる技なのだと思ひ到ります。

演題が「秘密の花園」とされていたのもうれしいことでした。図書館も、数多い本を眺めたり、読んで元気をもたらしたり、行動のきっかけをあたえられたりと、花園のような所でもありますから。

メアリーのような司書さんもいるのです。

11月23日 M. S



講師の小村和代氏

## 来館者 100 万人記念講演 「僕と本の話」～本を届けるという仕事～

令和元年12月15日(日)かほく市中央図書館2階視聴覚講義室にて、来館者100万人記念イベントとして、ブックディレクター幅 允孝(はば よしたか)氏の講演が開催されました。

本のチカラを信じて、あらゆる場所で本と人との出会いを生み出し続けてきたブックディレクター・幅 允孝さん。講演は大変好評で、かほく市民に幅 允孝ファンが増えたこと間違いなし。この素敵な講師をどうやって探してきたのか、この講演を企画したかほく市中央図書館の小村和代氏にお聞きしました。

**かほく市立中央図書館 小村 和代氏**

7年程前、東京で図書館や本屋巡りをした時にブルックリンパーラーというお洒落な飲食店に寄った。本が置いてあるというのが気になったからだ。本のセレクトや並べ方を見ると、選者が只者ではないことは一目瞭然だった。なにしろ西田幾多郎の「善の研究」の隣にマンガやアート本等が置いてあったりする。一体誰がこの本棚を作ったのだろう…。

その後、雑誌やテレビで仕掛人は幅 允孝というブックディレクターだと知った。以来この人はどんな読書をしてきたのだろう、頭の中を見てみたい、ずっとそう思っていた。だから来館者100万人記念講演を開催するにあたり某出版社からいただいた講師候補リストの最後にその名前を見た時、心が躍った。

講演を聞いた皆様からはもっと聞いていたかったという感想をたくさんいただいた。

もっと聞きたい方、残念ながら講演を聞き逃した方には「本を聴け～ブックディレクター幅允孝の仕事」高瀬毅・著(文藝春秋)をお薦めします。



ちなみに本の表紙の写真はブルックリンパーラーです

## 友の会 談話室

**講演 僕と本の話 ～本を届けるという仕事～**  
**講師 幅 允孝さんの言葉から**

職業名がないと、テレビには出られないので、あたかも存在しているようなブックディレクターという肩書をつけた、という自己紹介から始まった講演会。

今の時代は子どもも大人も忙しく、知っている本しか手にしない為、どの本を手にとって良いのかわからないとのこと。新刊を出す儲かるしくみになっており、タイトル数が増え、ジャンルでは絵本が多くマーケットでは読み聞かせがあふれている。

自分からつかまなくても、向こうからやってくるので“自発的に”がだめになる。

児童文学があまり読まれていないので、「人と本」にもう一度良い出会いを持って欲しい。

本は他者の目にさらされて本になる。人が集まる場

所に本を持って行く、本を手取る環境をつくるのが大事で、初期行動として自分の好きな本を伝えてほしい。

固定概念にとらわれないユニークな本の展示や、特色のある図書館等の紹介をされた後、本は一人で楽しみ孤独であるが、一人の作家の“ことだま”を受けとって欲しいと力説していた。

2034年にはAIが人間の能力を超えるとのこと。人間は何を考えなければならないのかーデジタルは書き直すことができるが、紙に書いたものは、書き直しができない。変な怨念があり人にささったものは抜けない。

語学の研修など色々な活動ができるニューヨークの図書館についても聞くことができ、図書館は人が集まる場所として、色々な魅力や可能性を秘めた場所であることを実感しました。

友の会の企画もそれなりにお役に立っているのではないかと感じました。

とても有意義な講演会でした。(K.A.)

**友の会だより 第23号**  
**『お詫びと訂正』**

令和元年11月に発行した「かほく市図書館友の会だより 第23号」の参加者の声のお名前に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。  
P.2 (誤) 表 義一さん (正) 善一さん

ありがとう! 

# 哲学館 Xmas クラシックコンサート!!

2019年12月21日(土)、西田幾多郎哲学館で開催されたヴァイオリン、チェロ、ピアノの編成によるクリスマスコンサートのチケットが、かほく市教育委員会

のご厚意により会員全員にプレゼントされました。今回は、クリスマス間近の週末の静かな夜に開催され、素晴らしい演奏にうっとり酔いしました。

## 友の会活動予定

### ●リサイクル本収集

かほく市立中央図書館階段下のリサイクル本入れで常時受け付けています。

たくさんありがとうございます!!  
今後ともご寄付をよろしくお願いします!

やってみたいと思う方は  
ボランティアルームまで  
おこしてください。



### ●応援ボランティア

【開催日時】 ※6月以降の開催日時は、総会で決定します。

■第1・3・5週 14:00~15:30

■第2・4週 10:00~11:30

4月 7日(火)、 4月 21日(火)  
5月 19日(火)、 6月 2日(火)

4月 14日(火)、 4月 28日(火)  
5月 12日(火)、 5月 26日(火)

【作業内容】 本の書架整理を中心に行います。

### ●古本朝市



【開催日時】 6月21日(日)、10月31日(土)・11月1日(日)、2月21日(日)開催予定

【会場】 かほく市立中央図書館 2階

## 編集後記

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で多くのイベントが中止や延期に追い込まれておりますが、今年度最後の『友の会だより』の編集会議は、自粛ムードが漂うなか予防策をとりながらの作業となりました。ご寄稿くださいました方々をはじめ、ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

なにかと暗くなる話題が多いこの頃ですが、毎日何度も聴いて元気をもらっている歌があります。今月ファーストソロアルバムをリリースした宮本浩次さんの“ハレルヤ”です。彼の歌とパフォーマンスに魂が揺さぶられ、明るく前を向いていく気持ちになります。

「〜〜ああ涙ぢやなく勇気とともにあれ ハレルヤ! ああ笑いとあれ 幸あれ」

ああ、笑顔が広がって社会が元気になることを願っています。

会員の皆様、次年度もよろしくお願ひいたします。皆様の笑いととも「かほく市立図書館」を応援していきましょう!  
(K.T.)

現在の会員数 130名

入会のお申し込みは、中央図書館サービスカウンターにて随時受け付けております。